



H30年度 小・中合同学校保健委員会を開催いたしました。

御多用の中、多くの方に御参加いただき、ありがとうございました。せっかくお集まりいただいたのに、開始時刻も終了時刻も遅れてしまい、大変申し訳ございませんでした。

今回の学校保健委員会の内容を簡単にまとめました。質疑応答の時間にて、保護者や地域の方の率直なご意見・ご質問をうかがうことができたことが非常に有難かったです。式根島の子供たちは、保護者の方をはじめ、地域の方にもこんなにも大切に思ってもらっている「島の宝」であることを改めて感じる時間でした。

時間の都合上、質疑応答の時間が十分に確保できなかったと感じております。何かありましたらいつでもお気軽にお問い合わせください。



<今回の内容>

- ・実態報告（保健関係）…各校養護教諭より紙面にて。
- ・講演「特別支援教育について」…教育庁大島出張所指導主事 飯田浩行 先生
- ・新島村の特別支援教室について…新島村教育委員会 青沼敏 教育長
- ・質疑応答



実態報告（保健関係）

- ・定期健診の結果（学校保健統計調査H30との比較）…歯科検診、視力検査について
- ・健康教育の取り組み
小：おはようカード、学校歯科医によるブラッシング指導、姿勢指導
中：学校歯科医によるブラッシング指導、冬期健康観察、生徒保健給食委員会

講演「特別支援教育について」

- ・身体障がい者と異なり、発達障がい者の場合は見た目では支援の必要性の有無が判断できない。
→必要な支援が行き届いていない場合が多い。

<一部の発達障害の特徴 → 学校生活で有効な手立て>

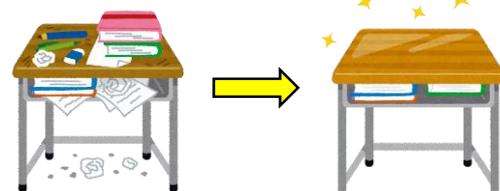
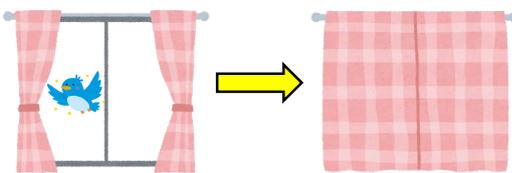
*ADHD（注意欠陥多動症）

- ・刺激に注意が傾いてしまいやすく、物事への集中が持続しにくい。

教室の窓から見える鳥、授業と関係のないプリント 等

→①注意を促してから話をする。

②刺激を減らして集中しやすい環境づくり。



- ・ワーキングメモリ（作業記憶）の容量が小さく、「忘れ物が多い」「漢字が覚えられない」等の生活や学習上の困難さがある。

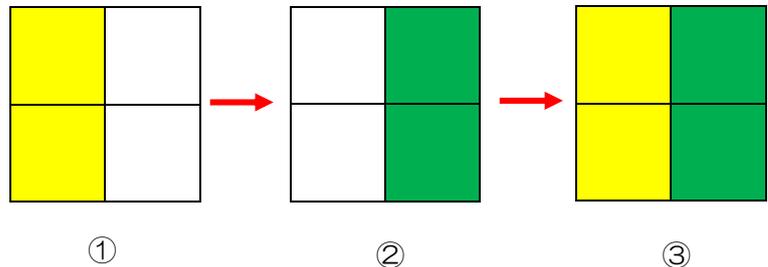
→①イラストを使用する等、覚えやすいように視覚化する。 ②簡潔に説明をする。（情報を減らす。）

*LD (学習障害)

- ・読字に課題…書いてあることの読み間違い(勝手読み)や、たどたどしい読み方(逐語読み)をする傾向。
→①文節を教える。 ②ルビ振りをする。 ③分かる言葉を増やしてあげる。
- ・書字に課題…字形を捉える、文字を記憶する、小さなスペースに書く等に困難さを感じる傾向。
→①どこに書くかを視覚化する。 ②聴覚優位の子供には、手順を音声で示してあげる。

例えば、国語のノートで漢字の書き取り練習をする際に、**辺**を左側に書いて、**つくり**を右側に書いて、最後に完成形まで書く場所を色で分けてあげることで、字形がとりやすくなる。

一画ずつ色分けする等の方法もある。



- ・学習事項の習得に時間がかかったり、学習方略が特殊であったりすることで、他者とのちがいに戸惑い、自己肯定感の低下に繋がってしまうこと等を「二次的障害」と呼び、負のスパイラルに陥ってしまうこともある。
→その前に、「分からない。」「手伝ってください。」「と周りの人に頼ったり伝えたりできる**「援助要求スキル」**を身に付けさせることが重要。

障害の有無に関わらず、すべての子供や人に必要なものだと思います。

- ・ユニバーサルデザインの観点から、特別支援教室は支援が必要な子供にとって過ごしやすい環境であると同時に、どの子供にとっても過ごしやすい環境であるといえる。
- ・「平等」ではなく「公平」を保つことで、発達障害のある児童生徒が特別扱いされるのではなく、他の児童生徒と同じ学習の機会を与えられる社会になるとよい。(合理的配慮)

新島村の特別支援教室制度について

- ・特別支援教室パンフレット(教育委員会発行、7日全体保護者会にて配布予定)に基づいて説明。

質疑応答(一部を紹介させていただきます。)

Q. 特別支援教室に入室して支援を受けるには、保護者の意向は絶対なのか。

A. 保護者の意向が絶対である。子供たちがそれぞれに合った支援を受けながら学校生活を送るためには、保護者・地域の方に特別支援教育について理解していただき、心理的ハードルを下げるのが望ましい。また、特別支援教室は課題をクリアした際には退室するものであることも御理解いただきたい。

Q. 地域として、発達障害のある子供たちをどう支えていったらよいのか。

A. 相手が求めていることに手を差し伸べてあげてほしい。また、1人1人の得意なこと、よいところを褒めたり、一緒に過ごしたりして、寄り添っていただけたらと思う。



“特別”という名前から、特別支援教育をハードルが高いもの感じてしまう方もいると思います。しかし、有効な手立てとして指導されている内容や環境の整え方等は、障害の有無に関わらず、どの子供にとってもよいものです。

特別支援教育への理解を深めることは多様性理解にも繋がります。式小の児童は「みんなちがってみんないい」素敵な子たちです。特別支援教育について知る努力を続け、子供たちが自分自身や周りの人たちをより大切にすることができるよう働きかけをしていけたらと思います。